

入学を祝うことば

改めてになりますが、46期生の皆さん、入学おめでとうございます。本来であれば、4月8日に入学式を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての府立学校が臨時休業となり、行う事ができませんでした。

5月になり、46期生の皆さんが登校できるようになりました。登校する元気な姿を見せてもらえ、非常にうれしく思っています。これから3年間、皆さんと一緒に、元気に過ごせればと思っています。よろしくお祈りします。

さて、今、社会の状況は大きく変わってきました。18歳になれば選挙で投票できるようになったことは知っていると思います。そして、皆さんが3年生になる令和4年度から、18歳で成人として扱う事が決められています。これから高校で学ばれる皆さんにはあまりピンとこないかもしれませんが、どうしてこのような状況になったのか、そして高校で過ごす間に何を求められているのかを考えてみます。

この18歳成人の議論は、今から10年以上前から始まりました。社会が成熟していく中、『若者が活躍できる社会を作る』と『世界の主流に合わせる』という2つの大きな理由がありました。

成人となれば、自分の判断で色々な事ができます。法律が整えば、仕事選びや結婚、住居決めなどについても、自分の判断でできるようになります。色々な事にチャレンジする機会も、自分で作ることができるようになります。ただ、この議論が10年以上続いたのにも訳があります。そのひとつは、色々な問題に対応が必要となったとき、その知識が十分ついていなければ、『知らないことで被害にあう』ことが起こるからです。

困った時にだれに相談するかと聞かれれば、親や友人と答える人は多いと思います。しかし、成人すれば、いつまでも親に頼るわけにはいきません。まして、仕事で遠くにいていけば、相談すら簡単にはできません。友人といっても、正しい知識を持っていれば力になってくれますが、この知識が間違っていると、困った事やトラブルにも発展することもあります。例えば、必要に迫られてお金を借りる事があります。自分で借金を返す必要がありますが、病気になって返すことが難しくなったらどうすれば良いのでしょうか。こんな時に正しい知識を持っていないと、トラブルを大きくしたり、信用を失ったりすることも起こります。

そのため、高校では、正しい知識を身に付け、社会の一員として責任を果たしながらしっかり過ごせるよう、多くの事をさらに教えるようになりました。難しい内容もありますが、それを成人になる前に学んでもらう必要が出てきたのです。

もちろん、英語や数学、国語など、もともと高校で学ぶ事は多いですから、中には難しかったり、全く分からなかったりする事もあると思います。そんな時は、どうすれば良いのでしょうか。

そんな時はあきらめてしまわず、まずは担任の先生や教科の先生に相談してください。もちろん、相談したからわかるようになるわけではありません。努力を求めるのはもちろん同じですが、自分が何から順番に学べば良いのかがわかり、心の負担は軽くなると思います。

いろいろと学ぶ事も多い高校生活ですが、入学したみなさんが本校で過ごす中で、自ら考え、自ら学ぶ習慣を身に付け、少しずつ着実に成長していく事を願っています。

以上、これを新入生の皆さんへのお祝いのことばといたします。